

現実の「地獄」にまつわる恐ろしい話

別府の「地獄」に関する恐ろしい話はたくさんあります。江戸時代（1603～1867 年）に書かれたと思われる記録に、硫化水素の風が地獄から吹き出し、道を行き交う牛や馬がたくさん死んでしまったとあります。そのため地元の人たちは神さまに祈りを捧げ、地獄からの風を止めるために、奉納相撲を毎年行うことにしたそうです。

また、「豊後国風土記」に記録されている 8 世紀初頭ごろの話はさらに恐ろしいものです。2 頭の牛が誤って地獄に落ちてしまい、牛の骨だけが水面に浮かびあがったのだそうです。

それよりもショッキングな話は 1694 年の「豊国紀行」に収録されています。別府の人たちによって長年語り継がれてきた、激しい喧嘩をした夫婦の物語です。喧嘩の末、妻は地獄の中へ身投げしてしまいました。その後、見つかったのは妻のわずかな髪の毛だけだったのです。

嘘か真かわかりませんが、これらの話は地獄のそばに住むことの危険性を、地元の人に思い出させてくれるものなのです。